

「戦争孤児」を生きる
— 当事者の語りから戦争と戦後を問い直す —

日時 2023年10月27日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 土屋 敦（研究員、社会学部教授）

第2次世界大戦で親を失った戦災孤児・戦争孤児は、戦後70年にあたる2015年まで多くを語らず、「沈黙の半世紀」「沈黙の70年」を生きてきた。彼・彼女たちはなぜ沈黙してきたのか。これまでの人生で何を体験してきたのか。なぜいま、自らの足跡を語れるようになったのか。

本公開講座では、これまで沈黙してきた戦争孤児の当事者たちにロングインタビューを行ってきた結果から、戦争孤児たちの浮浪生活、自殺を考えるほどの親戚宅での冷酷な処遇、教育にアクセスできない困難、就職の難しさ、家族をつくることの願いと拒否感など、これまで歩んだ生活実態を明らかにしていきます。

また、戦争孤児が自らを語り、社会的な承認を求める契機になった東京大空襲集団訴訟などについての思いも聞き書きして、「戦争で親を失った子どもたち」が、抱え続けてきたスティグマとどう向き合い、自らの来歴をどのように語るのかを検証していきます。

本公開講座内容は、土屋敦2021『「戦争孤児」を生きる——ライフストーリー /沈黙/語りの歴史社会学』青弓社で執筆した内容の一部紹介になります。ご関心のある方は、こちらの書籍も是非ご一読ください。

戦争で両親を失い、頼るべき支えがない中で戦後社会を生きざるを得なかった戦争孤児の方々の語りから、戦争とは何か、戦後社会とはどのような社会だったのかを、皆さまと一緒に考える機会に出ればと思っています。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前を受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

手話通訳が必要な場合は、10月5日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>